

庭球部





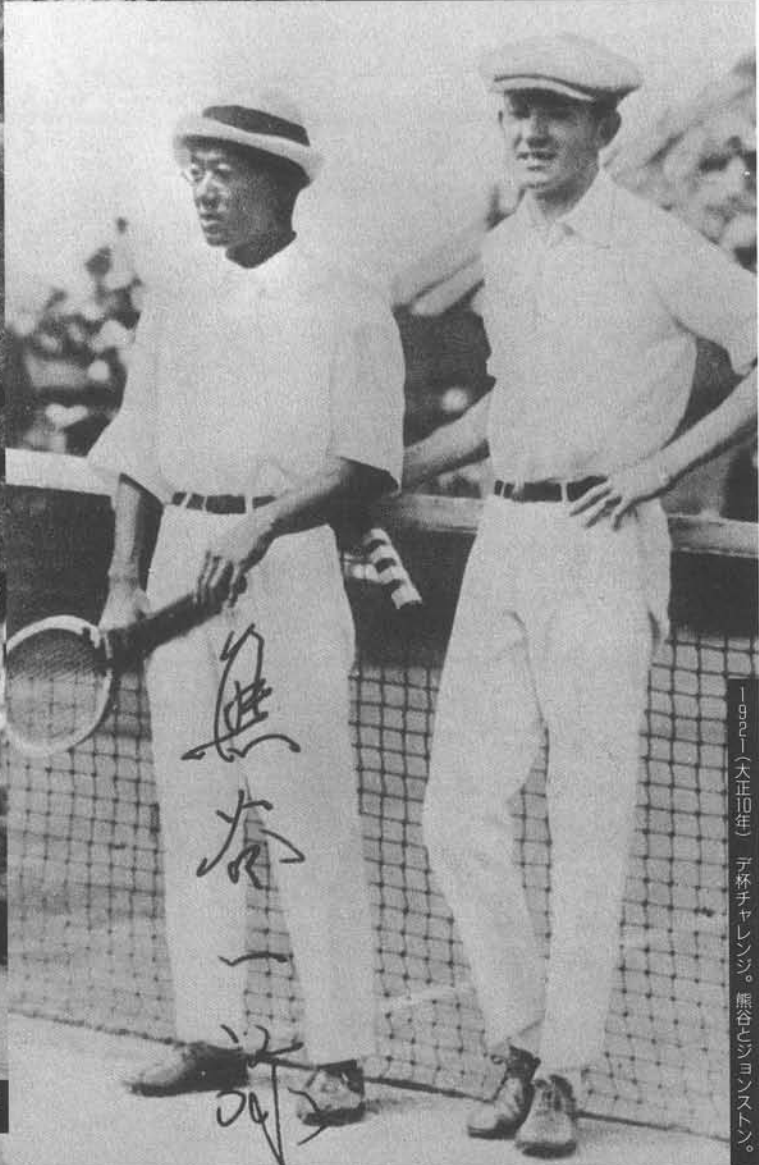
原田(武)のフォアハンド(大森コート)



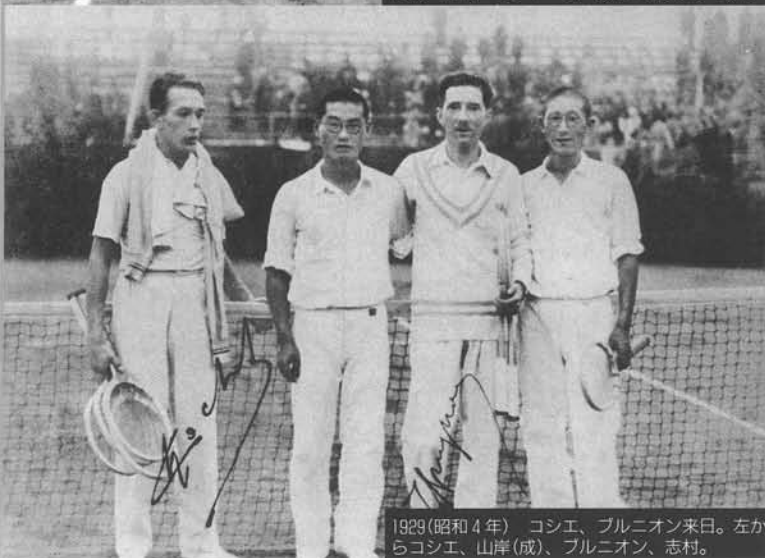
碑文に曰く「練習ハ不可能ヲ可能ニス 信三」庭球部の先輩であり、第4代部長、初代庭球三田会長でもあった小泉信三先生の教えを、真筆のまま刻んだものである。この教えをテニスする心とし、人生訓とする我庭球部にとり、富士の山より更に大きな碑である。



1927(昭和2年) リチャーズ来日。左から原田(武)、福田、リチャーズ、久邇宮邦久王、石井。



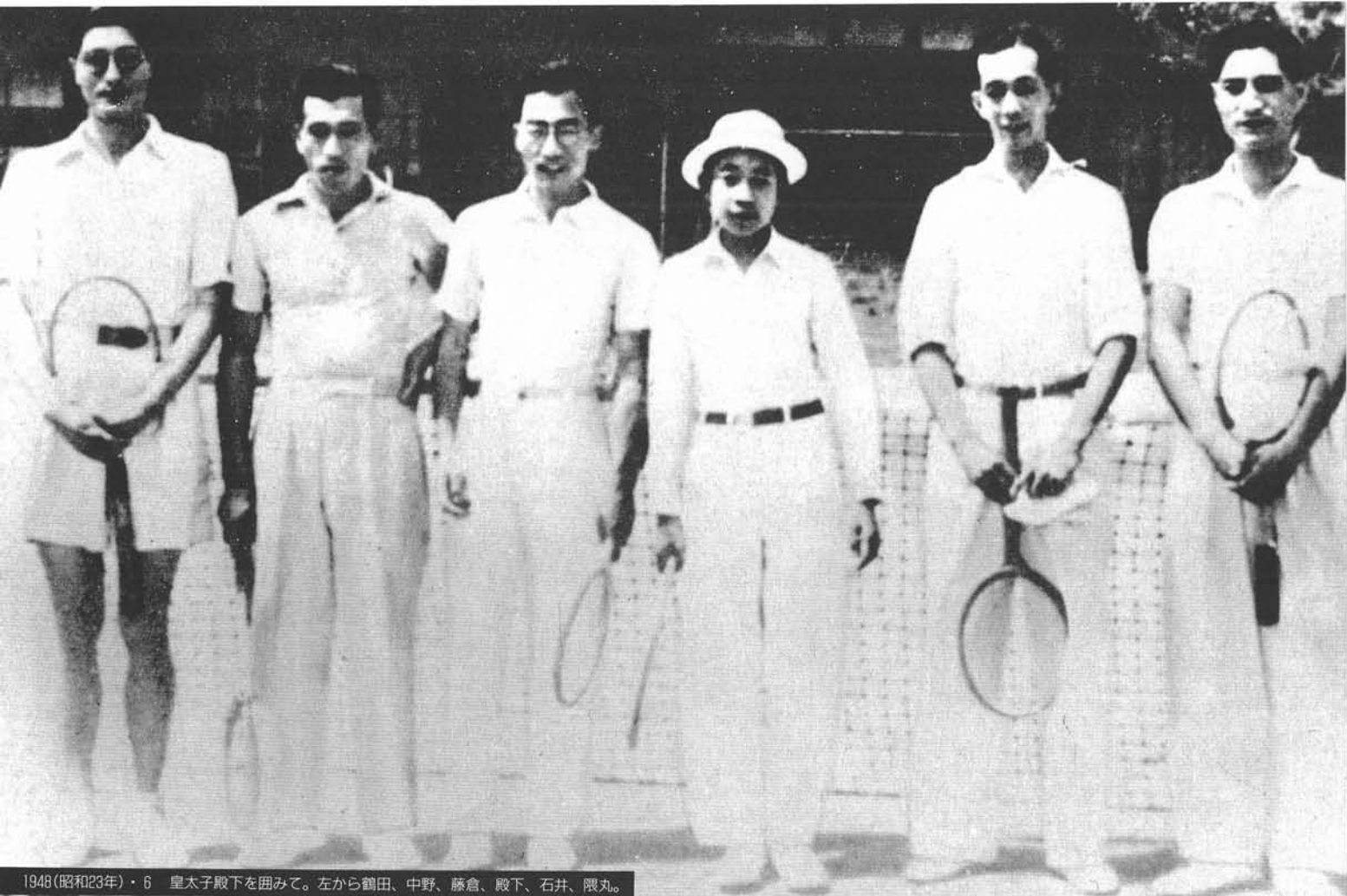
1921(大正10年) デ杯チャレンジ。熊谷とシヨノンストン。



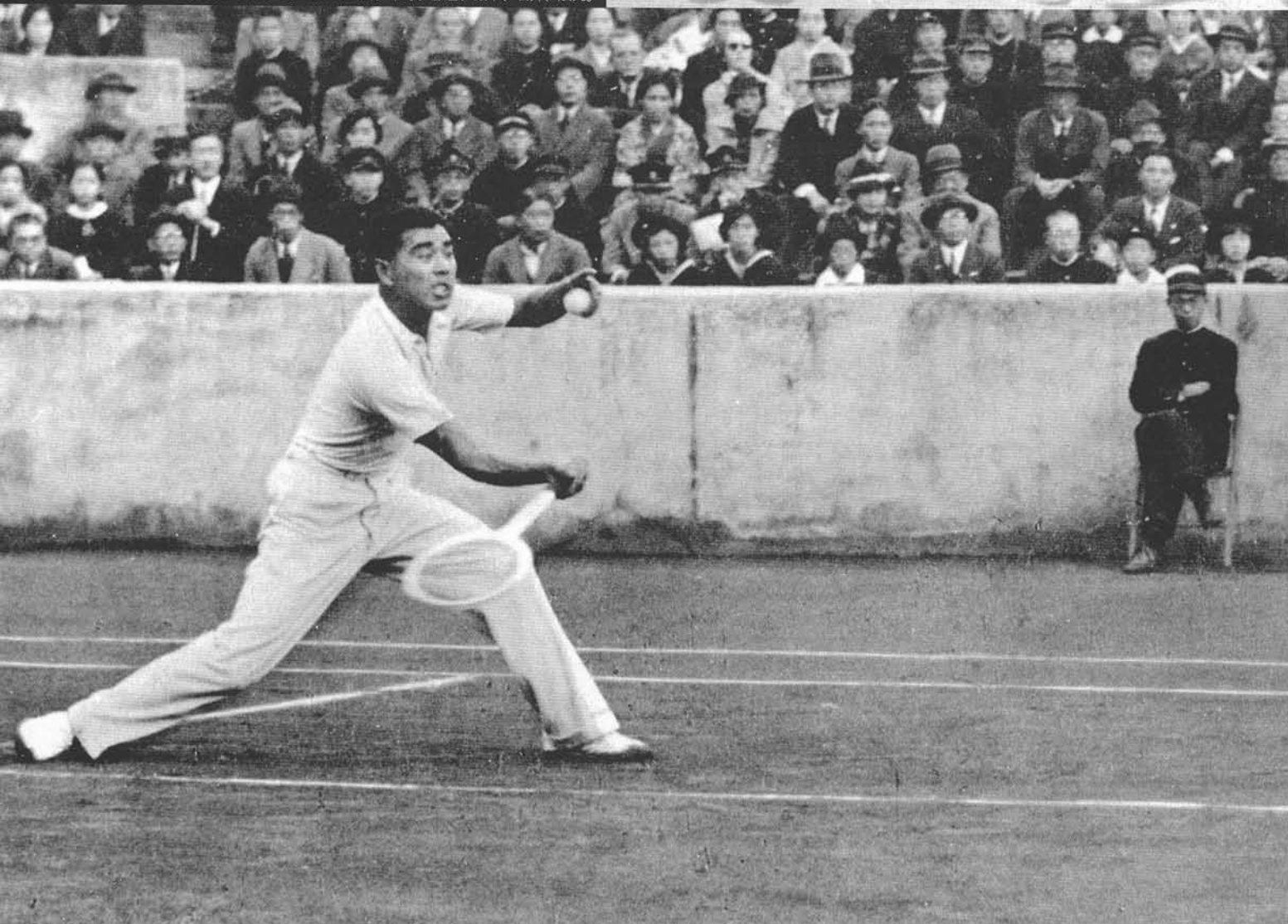
1929(昭和4年) コシエ、ブルニオン来日。左からコシエ、山岸(成)、ブルニオン、志村。



1934(昭和9年) 全日本選手権獲得。山岸と西村。



1948(昭和23年)・6 皇太子殿下を囲みて。左から鶴田、中野、藤倉、殿下、石井、隈丸。



1937(昭和12年)・10 ドイツのクラムと対戦する山岸二郎。

1951(昭和26年) 庭球部創立50年祭。



1955(昭和30年)・春 日吉コートにおける第2回女子早慶対抗庭球試合。



1954(昭和29年)・10・2 第1回女子早慶対抗庭球試合記念撮影。早稲田大学三神記念コートにて

1952(昭和27年) アメリカ、シンシナティにおけるテ杯。隈丸とラーセン。

1898 春、大塚千代造等が薩摩原で慶應義塾初めてのテニス会を催す。

1900・11・25 東京外国語学校と団体として初めて試合を行い、辛勝。本塾テニスが初めて時事新報に掲載される。

1901・10 三田山上にテニスコート完成。庭球部創設。体育会加入。部長雨宮達也。

1902 小泉信三入部。後に部長、更に塾長。

1903 部長田中卒一郎。

1904・10・29 三田コートにおいて早慶戦始まるも日没中止引き分けとなる。／夏 伊東で最初の合宿練習を行う。

1906 秋、早慶野球戦の紛擾が因で、両校の全対抗戦が中止となる。

1908 三田綱町にコート移転。

1910・5・13 三田稲門戦敗北。／9・18 後に我が国最初のテ杯選手となった熊谷一弥が三田稲門戦に初出場し全勝。

1912 主将野村祐一は熟慮の後、硬式採用を

断行。以後対抗戦なく、外国人との練習試合に頼ったが、海外遠征して国際的となり、熊谷以下名選手輩出の原因となる。部長林毅陸。

1916 天現寺にコート移転。

1920 秋、全国大学専門学校で硬式採用。／11・13 東西専門学校硬式庭球大会開催。

復、原田・木村優勝。

1921 東部学生庭球連盟発足。委員、野村祐一、岡田四郎。春秋リーグ戦挙行、優勝。／10

インターカレッジ開始。単、原田優勝。復、原田・木村準優勝。／秋 コート四谷移転。部長小泉信三。この年、在米の熊谷、在インドの清水(一橋大)の活躍により、本塾OB朝吹

常吉は日本庭球協会設立の条件の下に米国庭球協会よりテ杯参加の了解を得、ここに日本庭球協会が誕生。しかも両選手はインド、オーストラリアを破り、チャレンジャーとして覇者米国には惜敗したが、日本庭球界に多大な刺激を与えた。

1922 日本庭球協会正式発足。会長朝吹常吉。／9・9 全日本選手権始まる。

1923 全日本ランキング初めて発表。1位原田。／夏 コート大森移転。財源の必要から庭球部後援会設立。会長小泉信三。原田、テ杯初出場、以後3年連続出場。

1924 早慶戦復活。

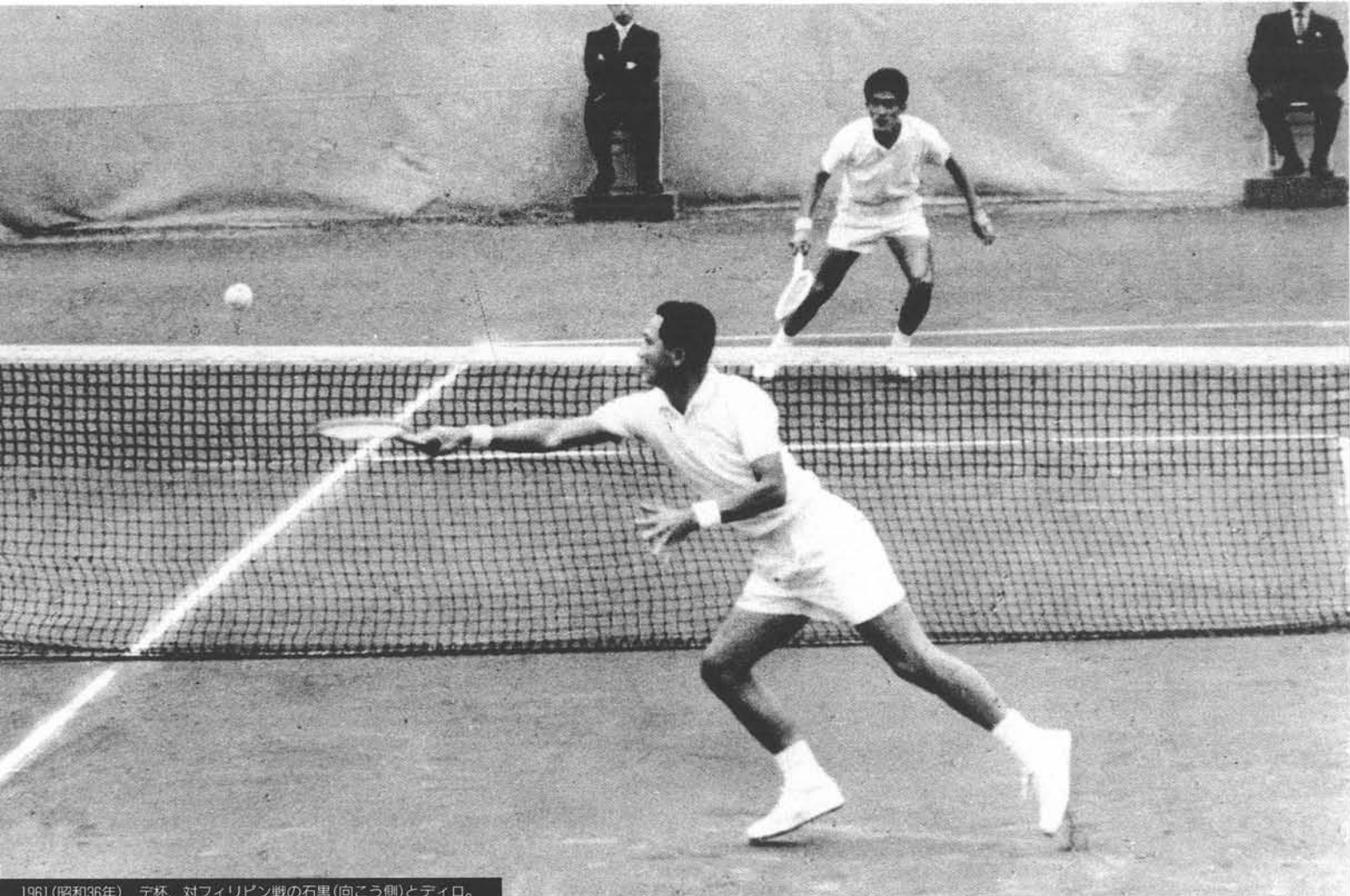
1927 部報創刊。各号150頁に及び部報としては最高と言われ、現在に至る。／11 全日本単、石井準優勝。OB原田テ杯出場。

1928 全日本複、山岸(成)・志村優勝。

1929 全日本学生及び全日本複、山岸(成)・志村準優勝。

1930 全日本学生単志村、複山岸(成)・志村共に準優勝。全日本複山岸(成)・志村優勝。OB原田テ杯出場。

1931 部長井汲清治。全日本学生、全日本複共に山岸(成)・村上(保)優勝。／11 庭球部30年誌刊行。祝宴を開く。



1961(昭和36年) テ杯、対フィリピン戦の石黒(向こう側)とディロ。



1968(昭和43年)・3 小泉体育賞を授与されて。



1990(平成2年)・11・24 早慶戦。2日にわたる大接戦をものにし、1984年秋以来の本塾勝利に貢献する重要なポイントをあげた藤井慶三。

1932 全日本複西村・村上(保)準優勝。
 1933・8・13 コート日吉移転。全日本学生
 単山岸(二)優勝。西村準優勝。複山岸(二)・
 西村優勝。全日本単西村、複西村・山岸
 (二)、優勝。
 1934 山岸(二)、西村テ杯出場。全日本学生
 単山田優勝。全日本単山岸(二)、複山岸・西
 村優勝。小泉信三塾長となる。関東学生リー
 グ戦始まる。
 1935 山岸、西村テ杯出場。全日本学生複高



1951(昭和26年) 庭球部50年祭での元老組の集い。

橋・村上(麗)優勝。全日本単山岸、複山岸・
 村上優勝。
 1936 全日本学生複平井・村上優勝。全日本
 単山岸、複山岸・村上優勝。
 1937 ドイツテ杯選手クラム、ヘンケル来
 日。全日本決勝にて、単山岸、複山岸・村上
 惜敗するも国内最高の試合と評される。全日
 本学生複鶴田・村上優勝。OB西村テ杯出場。
 1938 山岸テ杯出場。全日本学生単松岡準優
 勝。複鶴田・鍵富優勝。全日本単山岸、複山
 岸・鶴田優勝。山岸の現役で単4度、複5度
 目の全日本制覇は前人未到の偉業。
 1939 全日本学生複鶴田・楠本優勝。藤倉・
 山川(恵)準優勝。
 1940 欧州大戦開戦。テ杯中止。全日本学生
 単鶴田、複鶴田・山県優勝。全日本複鶴田・
 山県準優勝。
 1941 藤倉、隈丸両名のドイツ派遣、独ソ開
 戦のため中止。全日本学生、全日本共に中止。

1942 全日本学生単隈丸、複隈丸・佐藤優
 勝。
 1944 春を最後に早慶戦中止。
 1945・8・15 終戦。日吉は米軍に接収さ
 れ、田園クラブのコートを借りて練習開始。
 1946 春、日吉コート使用許可。早慶戦、リ
 ーグ戦復活。全日本学生複松井・岸田優勝。
 1947 OB石井小一郎、皇太子明仁親王殿下
 庭球コーチ就任。全日本学生単松井優勝。複
 松井・岸田準優勝。部長小松房三。
 1950 全日本学生複内田・青木優勝。全日本
 大学対抗王座決定試合(以下王座と略)準優
 勝。
 1951 全日本学生複内田・青木準優勝。OB
 藤倉、隈丸テ杯出場。
 1952 全日本学生複南・高山準優勝。王座準
 優勝。OB隈丸テ杯出場。女子部員誕生。
 1953 王座優勝。全日本学生複高山・吉村優
 勝、大鐘・南準優勝。



1990(平成2年)・11・25 早慶戦6年ぶりの81勝目。歓喜の胴上げ。

1990(平成2年)・11・25 早慶戦に勝利をおさめ、熱歌を歌う部員達。

1991(平成3年)・7・5 庭球部創立90周年記念祝賀会。山岸主将による選手紹介。



1954 王座準優勝。全日本学生単高山優勝。吉村準優勝。複高山・吉村準優勝。
1955 王座優勝。全日本単吉村準優勝。
1956 王座準優勝。全日本学生単岡留優勝。
1957 王座優勝。全日本学生単石黒優勝。複村上・石黒準優勝。OB岡留テ杯出場。
1958 王座優勝。全日本学生単石黒優勝。複石黒・長崎準優勝。石黒テ杯出場。
1959 王座優勝。全日本学生単長崎・複長崎・半那優勝。ユニバーシアード複長崎・半那優勝。
1960 王座準優勝。全日本学生単半那優勝。複半那・四宮準優勝。全日本単半那準優勝。OB石黒・長崎テ杯出場。部長水野忠款。
1961 OB石黒・長崎テ杯出場。
1962 全日本学生女子単伴野準優勝。OB石黒テ杯出場(以後5年連続出場)。
1963 王座準優勝。
1964 王座優勝。全日本学生単井上・複田中・

飛鳥井準優勝。
1965 王座優勝。
1966・5・11 小泉信三先生逝去。王座男女共優勝。全日本学生単山岸・複山岸・古林優勝。
1967・3・26 小泉先生記念碑建立。小泉基金設立。王座優勝。女子準優勝。全日本学生複古林・栗岡優勝。女子複中川・清水準優勝。
1968 王座4年連続9度制覇。早慶戦11連勝(通算67勝11敗)の成績により、小泉体育賞を受ける。
1969 部長朝吹三吉。
1970 王座優勝。
1971 全日本学生女子複松平・田中準優勝。／11・21 庭球部創立70周年記念式典および祝賀会。
1972 部長和田木松太郎。
1974 王座優勝。
1975 部長、監督、選手7名渡米。技術向上

学校教育の研鑽に多大の啓発を受ける。部としては初めての海外遠征であった。

1976 王座優勝。
1977 王座優勝。
1980 部長神谷不二。
1984 秋、早慶戦80勝。
1986 庭球部クラブハウス改築。
1987 王座準優勝。
1990 秋、早慶戦勝利。81勝50敗となる。
1991 王座準優勝。／7・5 庭球部創立90周年記念、祝賀会。部長鳥居泰彦。



1990(平成2年)・11・25 早慶戦久々の勝利に酔う。